

世田谷区立千歳小学校
学校関係者評価委員各位

学校関係者評価委員会事務局

令和5年度 世田谷区立千歳小学校 自己評価報告書

「学校関係者評価アンケート・教職員自己評価 実数・回収率」

		実数	回収率
学校関係者評価	保護者	620	70.6%
	児童	800	92.1%
	地域	22	
教職員自己評価	教職員 (事務主事、用務主事、講師含む)	35	

0、学校関係者評価アンケートの回収率について

昨年度の学校関係者評価アンケートの回収率の低下を受け、学校では2点の対応策を行った。1点目は、全児童へ「学校関係者評価アンケート」のお知らせの配布である。回答は、全児童が対象であるため、家庭数とはせずに児童数で配布したことで、家庭で複数枚配られることもあるが、認知度は高まったと考えられる。また、紙面に2次元コードを載せたことで、「すぐる」画面からではなくその場で回答できるようした。

2点目は、「すぐる」での複数回にわたるリマインドである。回答開始1週間後、回答締め切り3日前、前日にリマインドを送信した。さらに、それぞれの段階での回答率を載せ、どのくらいの回答率かをお知らせするようにした。

その結果、昨年度より大幅に回答率が上がり、70.6%となった。今後、回答率を上げるためにも「学校関係者評価アンケート」が千歳小学校の教育活動にどう反映されているのかを具体的に伝えていくなど、自分たちの回答がより学校活動になっていることを実感できるような対応が必要だと考える。

1、今年度の重点目標への取組に対する評価

《千歳小学校 教育目標》

よく考える子ども 思いやりのある子ども 体をきたえる子ども

《令和5年度重点目標》

◎「自分が自分を育てる」千歳っ子の育成

○自ら課題を見つけ、他者とのかわり合いを通して自己の考えを深め、解決していく児童

○人を思いやり、主体的に行動して一部でも社会を変えられたと実感できる児童

○自分のなりたい姿(ゴールイメージ)を思い描き、失敗をおそれずチャレンジできる児童

- ・重点目標を達成するための基本方針
 - キャリア教育の推進
 - せたがや探求的な学びの推進

〈重点目標の数値評価〉

【数値目標①】

「自ら課題を見付け、解決のための見通しをもち、必要な情報を収集したり整理分析したりして解決案など自分の考えをまとめ、表現していく探究的な学習が楽しいと感じる児童の割合を80%以上にする。」

〈児童アンケート結果〉(A よくあてはまる、B あてはまる を選んだ児童の割合)

「私は、自分で課題を見付けて、解決していく学習が楽しい。」⇒全校 72.8%

1年 79% 2年 77% 3年 81% 4年 66% 5年 66% 6年 67%

数値による成果は、72.8%と目標より7.2ポイント低い。また、教職員の自己評価でも肯定的な評価が77%と、昨年度より4ポイント下降した。児童アンケートの傾向としては、3年生と4年生を比較すると15ポイントの差があることが分かる。学年が上がることで、求められる知識量が増え、自分たちのもつ「したい」「やってみたい」という思いよりも、「ならない」「すべき」という受動的な学習姿勢になってしまうことが考えられる。

児童アンケート「先生は、課題(めあて)について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」の肯定的評価が95.7%であり、児童が主体となった授業づくりを大切にしていることが分かる。しかし、それが自分たちで学習を進めているという実感にならないことや学力の個人差があり、自分で課題を解決できない児童にとっては負担になっているのではないかと考えられる。課題をつくるだけでなく、課題解決に向け、児童自身が自分の学力にあった解決方法を選択できるような手立ても今後必要ではないかと考えた。また、学習した内容が自分自身の今後にどう結び付くのかを実感できる場も必要であり、何のために学習しているのかを教職員とともに児童が考えることができる時間があってもよいのではないかと感じている。一斉授業で学習するよさ、個別で学習するよさがある。それぞれの長所を生かしながら、児童の実態にあった授業スタイルを千歳小学校として創り上げるときなのかもしれない。

今年度の校内研究は、「問いや思いをもち、自ら学ぶ児童の育成～各教科での探求的な学びの授業を通して～」を研究主題として進めてきた。せたがや探求的な学びの基本スタイルをベースに、どの学年も、①教材(題材)との出会い②思い③問い④めあて・課題設定⑤課題解決⑥振り返り⑦自己評価の流れで授業を組み立てるように努めた。特に、単元の導入部分に力を入れ、児童のもつ「なぜ」「みたい」「したい」という思いを引き出す工夫を研究してきた。校内研究部のアンケートでも、教職員の多くが主題の意味を理解し、授業改善に努めることができたと振り返っている。その一方で、児童の問いや思いを引き出し、ファシリテートする難しさが分かり、より緻密な教材研究が求められることが課題としてあがった。

【数値目標②】

「かかわり合う活動を通して自分の良さや他者の良さに気付いたりし、自分の考えをより高めることができたといえる児童の割合を90%以上にする。」

〈児童アンケート結果〉(A よくあてはまる、B あてはまる を選んだ児童の割合)

「私は、自分らしさを大切にし、他の友達の良さも大事にしている。」⇒ 全校 87.1%
1年 81% 2年 84% 3年 91% 4年 90% 5年 86% 6年 91%

- 数値による成果は、87.1%と目標より2.9ポイント低い。教職員の自己評価では、85%でも肯定的な評価をしていて、設定目標まで到達しなかったが取り組みに対する一定の成果が出ていると考えられる。今年度は、感染症対策をすることもなく様々な場面で児童同士がかかわる機会を多く設けるようにした、学習用タブレットのアプリ内でのかかわりだけでなく、授業ペアやグループ活動も対面で行うようにしてきた。その中で、児童同士のかかわり合いが増え、互いの「よさ」や「らしさ」に目を向ける機会が増えたことがこのような結果となった。その一方で、引き続き自己肯定感や自己有用感が低く、自分に自信をもつことができる児童が少ないように感じる教職員もいる。教職員が、児童一人一人が自分の「よさ」や「らしさ」に目を向けられるような具体的な声かけや成功体験を積み重ねることができるような工夫をしていく必要がある。6年生の総合的な学習の時間では、キャリア教育の一環として、「リアル職業調べ」を行い、様々な職業の方の話を聞きながら、自分自身について考えるようにした。また、5年生の総合的な学習の時間では「SDGs」について学習したことをもとに、自分たちができることを考え、4年生では「思いやりの輪を広げよう」で福祉について考えたことをもとに、よりよい社会のために自分は何ができるかを考えるなど、総合的な学習の時間を通じて自分自身のキャリアアップを図っている。その他にも、特別の教科道徳の指導やキャリアパスポートなどを活用しながら、自分自身と向き合う活動の充実も必要である。
- 今年度も、たてわり活動や異学年交流を充実させることができた。1年生と6年生とペアっ子活動では、入学した当初の朝の準備や清掃などのお手伝いだけでなく、体力テストの記録の補助をしたり、祖師谷公園で一緒に遊んだりするなどかかわりを深めてきた。また、2年生と5年生で体力テストの記録補助、3年生と4年生での交流会、3年生が2年生に総合的な学習で学んだことの発表会など様々な形で学年同士がかかわり合う機会を多く設けた。また、たてわり活動では、異学年同士のグループをつくって、たてわりリーダーである6年生を中心に遊ぶ活動も充実させることができた。また、全校集会では児童同士が直接ふれあう遊びを取り入れながら、他学年と交流できる場を、特別活動部を中心に進めている。

【数値目標③】

「自己の目標（ゴールイメージ）に向かって、自分であきらめずに粘り強く取り組むことができたといえる児童の割合を83%以上にする。」

〈児童アンケート結果〉(A よくあてはまる、B あてはまる を選んだ児童の割合)

「私は、めあてや目標を達成するために、あきらめずに取り組むことができる。」⇒全校 79.2%
1年 82% 2年 75% 3年 82% 4年 75% 5年 79% 6年 83%

数値による成果は、79.2%と目標値より3.8ポイント低い。教職員の自己評価でも、62.0%と低い。学級の中で、様々な取り組みを行っているが「自己の目標をうまく設定させることができない」「イメージすることはできてもそこへ向かっていけない児童がいる。」「粘り強く取り組むことに課題を感じる」などの意見が出ている。また、キャリアパスポートも形骸化していて、学期末の振り返りに記入をする程度にとどまり、生かしているとはいえないのが現状である。学期始めや学期末には、どの学級もめあてを立て、振り返りを行っている。始業式や終業式では、代表児童が自分の成長を述べるなど自分自身を振り返る場は十分に確保されているが、ただの作業となっており、「何のために」「どうつながるのか」を考えながら行っている児童は少ないと考える。

まずは、キャリア教育担当が年間指導計画を整え、どのように指導をしていくのかを明確にしていく。また、キャリアパスポートの内容を見直し、児童が1年後の姿の見通しをもつことができる形式に変更をする。さらに、キャリアパスポートの活用に関して、保護者にも周知し、千歳小学校でどのように活用しているのかを明確にする必要があると考える。また、学習指導の中でも、自分のキャリア形成にどう生かされているのかを日常的に伝えることも必要ではないかと考える。

【数値目標④】

「学習したことから、自分は何ができるかを考え、自ら取り組むことができたといえる児童の割合を73%以上にする。」

〈児童アンケート結果〉(A よくあてはまる、B あてはまる を選んだ児童の割合)

「私は、学習したことから、新しいことを考えることが好きである。」⇒ 全校 69.5%
1年 78% 2年 65% 3年 77% 4年 66% 5年 60% 6年 71%

数値による評価は、目標よりも低い結果であった。また、教職員の自己評価でも、71%と目標よりも低い。自己評価の中で、「学習のつながりを意識する。学んだことが次に生かされたという実感を味わわせるようにする。」「まだ受け身の児童も少なくない。学んだことを自らの興味につなげられるよう日頃から言葉かけをしたり、自己学習等で学びを深める経験を重ねたりする中で、主体性や創造する力を伸ばしたい。」などの意見がある。その一方で、「既習の内容を生かして学習計画をたてたり、課題の解決方法について考えたりする中で、学びを次に生かそうとする姿勢が見られるようになった。」「学習したことを活かして、次の学習に活かそうとする様子が見られる。」など肯定的な意見も昨年度と比べてでてきている。

この結果から、まずは学習したことやその成果、高まりを児童が実感できるようにする必要があると考える。実感をもつことができるよう、導入で既習事項を使ったり、振り返りを工夫したりするようにする。また、総合的な学習の時間で様々な教科で活用できることを確かめていく。さらに、校内研究部と連携を図り、振り返りの工夫を手立ての一つとすることも考えられる。ま

た、カリキュラムマネジメントの視点から教科横断的な学習を進め、学習のつながり意識した指導をしていく必要があると考える。

2、地域とともに子どもを育てる教育の評価

○保護者・地域との連携

保護者アンケート「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。」では肯定的な意見が69.2%であり、昨年度より2ポイント上昇した。しかし、分からないと回答したのが21.5%であり、半数以上の保護者は、本校が地域の方々と教育活動を進めていることを理解しているが、それを知らない保護者も一定数いることが分かる。

今年度は、外部講師や地域の方による出前授業を積極的に取り入れるようにしてきた。1～6年生の「山の木文庫」の読み聞かせ、1年生と地域にある幼稚園、保育園との交流、3年生は「祖師谷公園ワークショップ」を通して、公園管理課の方やぱる児童館の館長、木曜ハーブの会の方に来校していただいた。また、4年生では「くらやみ祭り」の授業の一環で、神明社の祭りの中心となった方、5年生ではSDGsについておやじの会の方、6年生でリアル職業調べや原爆先生など、地域の方に教わる取組を多く行うことができた。PTA主催では、学校運営委員会主催の「漢字検定」、学校主催の「放課後算数教室」のサポート、おやじの会主催のイベントなど、多くの保護者や地域の方々の協力により子どもたちに充実した学習や体験の場を提供していただいている。

学校公開や保護者会、ホームページ、すぐーるでの発信を通して、保護者に地域と連携していることを伝えたり、保護者の方も参観できる機会を作ったりすることで、本校と地域との連携について周知していけると考える。また、児童が家庭で話題にできるような学習活動を提供していきたい。

また、PTA主催の行事やおやじの会のイベントなど、地域行事に教職員も積極的に参加し、地域とのかかわりを増やしていきたい。

○広報活動・情報提供

保護者アンケート「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。」では、92.7%が肯定的な回答している。「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。」では、84.4%が肯定的な回答をしている。学校からのお知らせは基本的に「すぐーる」で行っている。今年度は、学校だよりを除くほとんどのお知らせを「すぐーる」で行うようにした。紙媒体で配布するものを減らし、スマートフォンやパソコンで確認できるため利便性が高い。今年度も引き続き、「すぐーる」を効果的に活用してきたことが、このような高い評価につながったと考えられる。その一方で、毎日「すぐーる」でのお知らせが入ることがあり、もとのお知らせから変更があったときは、訂正のお知らせを読まないことが多いということが分かった。「すぐーる」で配信するのは、便利ではあるが間違ったお知らせはそのまま伝わる可能性が高いということを理解しながら、活用していきたい。

ホームページでは、給食のメニューを毎日更新し、学校での様子を定期的にお知らせしている。学校便り、学年便りも毎月更新するなど、必要な情報を提供してきた。しかし、各学年の様

子を定期的にお知らせできていないのが現状である。ICT活用推進委員会を中心に体制を整えているが、更新頻度が上がらないため対応策を検討していきたい。

保護者アンケート「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。」では、93.1%が肯定的な回答だった。保護者会、学校公開を通常開催し、制限を設けることもしなかった。多くの保護者が参観していることから、関心が高いことが分かる。引き続き、月1回程度保護者が来校できる機会を設けていきたい。

○学び舎との連携

本校は、「みのりの学び舎」の一員として、千歳中学校・塚戸小学校・祖師谷小学校と共に、教育活動の連携を図っている。世田谷区では、年3回の「学び舎の日」が設定されており、みのりの学び舎では、4校合同で研究会を開いている。今年度は、塚戸小学校での授業参観も行われた。

学校関係者アンケート（保護者、児童）では、肯定的な回答が例年より上がったが依然として低い傾向にある。（今年度は、保護者39.4% 児童43.7%）、分からないという回答が保護者27.6%、児童13.3%であった。

今年度も、千歳中学校の2年生が「職場体験」として3日間、児童と一緒に活動することができた。運動会直前ということもあり、練習や準備を手伝いながら交流することができた。また、服のチカラプロジェクトでもたくさんの衣類が集まった。その活動が「学び舎」での活動であり、しっかりと交流しているということを見守りへ伝え、それが保護者の認識の向上につながることを期待したい。また、引き続き本校が「みのり学び舎」に所属し、千歳中学校との関わりがあることを知らせる必要がある。

3、これからの社会を生き抜く力の育成

○学習指導

本校では、前述の通りせたがや探求的な学びを基にした研究を今年度から行ってきた。校内研究では、各学年の授業研究や実践的な研修会が日々の授業改善に生かされている。今年度は、度導入の工夫+協働的な学びをテーマに授業研究を行い、1年生では国語科、4年生では社会科、5年生では理科、専科では図画工作で研究授業を行った。分科会テーマに則り、授業の導入や協働的な学びの場面を研究してきたが、教職員アンケートに、「具体的な児童の姿や指導内容が見えない」という意見が多く寄せられたため、来年度は、重点を焦点化していく。また、児童の「なぜ」「どうして」や「知りたい」「やってみたい」（探求的な好奇心）を引き出すような、一単位時間の授業の流れや単元計画を立て、指導方法の工夫をしていくこととなった。

教師の研究と修養を合わせた研修は、義務である。研究と修養の研修である。千歳小学校の教職員がチームとなり、今いる児童のために授業力の向上を図ることが求められる。先輩教員が、若手教員を育てるという意識をもち、OJT担当や授業力向上担当が力を合わせて底上げを図る。また、毎週の学年会等で各教科の指導内容や指導方法について話し合いを充実させ、教師集団が一丸となって授業改善に意欲的に取り組めるようにする。今後も授業研究を中心に指導の工夫、改善を図り、「できた」「わかった」という児童を増やし、児童の基礎・基本の着実な定着を

目指していきたい。

保護者アンケート「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切に授業を行っている。」の評価項目では、76.0%（昨年度80.7%）、「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」の評価項目は69.3%（昨年度81.9%）と肯定的な回答が下がった。学校公開を行い、授業の様子を見た保護者から、「児童がタブレットにずっと向かって、黙々と作業をしていた。」「先生とのやりとりがあまりなかった。」という意見があり、児童にとっては当たり前の学習が保護者には違和感と捉える部分があるのだとも考えられる。また、学年によって学習用タブレットの活用に差があるのも、このような結果につながったといえる。今後、発達段階に応じた活用の仕方めあての作成や、学習用タブレットが有効な場面とそうでない場面を区別した学習体制を整え、保護者に示すことも求められる。児童アンケート「先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。」の評価項目では、93.3%、「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」は、91.7%と高水準である。児童が、保護者に学習内容を説明したり、保護者会を通じて児童の取り組みを見てもらったりすることで、保護者への理解を得られるだろう。

○生活指導

生活指導部を中心に教職員の打ち合わせの場で学年ごとの情報の共有を密に行い、丁寧に指導を重ねてきた。また、週1回生活指導夕会を行い、児童の様子やケガ、事故やその他様々な問題について情報共有できるようにしてきた。その結果、教職員が同じ情報を持ち、受けもち以外の児童でも指導にあたることができた。Teamsの全校チャンネルを開設し、すぐに指導が必要なことに関しては、チャンネルを通してお知らせすることで、それを活用しながら指導に当たることもできた。

保護者アンケート「本校は、過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。」の項目は、76.5%（昨年度69.8%）、「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。」の項目は、83.7%（昨年度81.8%）となっていて、児童は学校での過ごし方やルールを概ね理解しているが、教職員が主導となつての指導をしているという印象をもっていることが分かる。引き続き、生活指導部としては、児童の安全に関わることについては、主導となり、一緒に考える内容についてはともに考えるというスタンスである。そのことを保護者に知ってもらい、協力を促す手立てをとっていきたい。

一方で、「本校の児童は、家庭や学校のルールを守って学習用タブレットを利用している。」の項目では、肯定的な回答が59.4%に止まり、昨年度より引き続き肯定的な回答が低い。児童アンケート「私は、学習用タブレットのルールを守って使うことができる。」では、85.0%が肯定的な回答をしていて、児童と保護者で差が生じていることが分かる。児童は、正しく使っているつもりでも、保護者には伝わっていないという現状である。なので、依然として、保護者から「動画配信サイトをずっと見ている」「学習しているのか、遊んでいるか分からない」という意見をもらう。また、「学校で預かってほしい。」や「学校に置いて帰ってはいけないのか。」という意見もあった。

さらに、教職員間でも学習用タブレットの使用に関する意識の違いから、一貫性のある指導を行うことができていないことが分かった。そのため、ICT活用推進委員会を中心に「千歳小学校タブレット使用のルール」を作成することにした。生活指導部と連携しながら、よりよく学習用タブレットを使用することができるよう、全校で共通したルールを策定し、正しく使用できるようにしていく。

児童アンケート「私は、学校のきまりを守って、行動している。」では82.7%、「学校のきまりを守らない児童に先生は注意している。」では、78.4%であり、例年に比べて肯定的な回答が低い。その要因の一つとして考えられるのは、今年度より明確にした「千歳のルール」である。今までは、暗黙の了解であったことやルールとして明記されていなかったことを、登校から下校までにどんなルールがあるかをまとめたことで、児童がきまりを守れていなかったと気付いたこともあるからだと考えることもできる。その一方で、ただルールを押し付けるだけでなく、お互い歩み寄りながらルールがあるのかをきちんと考え、話しながら指導をしていくことも今の学校現場では必要である。

いじめに関する調査を全校で2回実施した。調査の結果、あるいは寄せられた情報から把握したいじめについては、いじめ防止対策委員会を開催して、即時に対応し、解決に向けて努力を続けている。また、Q-Uテスト（3年生以上全児童対象）の結果を活用したり、日常から児童の様子を把握したりしながら、全教職員で情報共有を行い、組織的に指導している。また、すまいるルームの教職員との連携を密に図るため、定期的に校内委員会を開催している。

○学校行事

保護者アンケート「学校行事は、子どもにとって楽しい。」の評価項目では、肯定的な回答が97.7%であり、「学校行事は、子どもにとって達成感がある。」では、96.8%が肯定的な回答と高水準であった。児童アンケートも92.2%、83.7%と肯定的な回答をしていて、保護者、児童にとって学校行事が占めるウエイトが大きいことが分かる。

今年度は、年間を通して全ての学校行事を行うことができた。運動会、学習発表会（舞台発表）も好評で、学校行事が学校全体に活気を与えることが分かった。その一方で、教職員、児童が舞台発表に慣れておらず、練習日程の計画や指導方法などで細かい打ち合わせが必要になる場面もあった。行事が児童へもたらす効果と、教職員の負担を考えながらよいよい学校行事にすることができるよう、きちんと計画を立てていきたい。

4、信頼と誇りのもてる学校づくりの評価

○学校経営・学校運営

保護者アンケート「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。」では、85.5%と肯定的な回答が多い。また、「本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている。」では、76.3%と肯定的に捉えている。しかし、「私は、今年度の学校重点目標を理解している。」では、48.9%に止まり、否定的な回答をした方が、31.3%となっている。また、分からないと回答した方が21.5%であった。重点目標について理解している方が約半数程度

しかないということである。今年度も、学校説明会で、重点目標について校長から話をする場を設けた。そのことにより、重点目標を広く知らせることはできた。その一方で、今年度千歳小学校が目標としていることを保護者に確実に理解していただけなかったこととなる。

重点目標がどのような目標であり、どのように学校教育活動と関わっているかを説明し、そのために保護者に何を協力してもらうかを丁寧に説明することも必要であると考えた。そのためには、教職員が重点目標をきちんと理解しないといけない。今年度は、自己評価の中間評価を実施し、年度途中に確認する機会を設けることで、教職員の意識を高めてきた。教職員の自己評価も91%が教育目標（重点目標）に沿って指導をしていると肯定的な回答をしている。その一方で、保護者には伝わっていない部分がある。

まずは、教職員が千歳小学校をどういう学校にしたいか明確なプランをもち、重点目標を定める必要がある。また、それを教職員が理解し、保護者会で今年度の千歳小学校では何を大切にしているかを伝えるとともに、児童にも伝えていく必要があると考える。

○学校の安全性

昨年度より、学校関係者評価アンケートの項目に学校の安全面に関する内容項目が追加された。保護者アンケート「本校は、安全な学校づくりを進めている。」「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。」「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。」の3つである。それぞれの肯定的な回答は、82.6%、94.0%、78.7%と昨年度を上回る結果であり、本校の安全性は理解してもらえているという結果であった。

今年度も、避難訓練を月に1度ずつ計11回行うが、訓練の内容と難易度を変えながら、教職員、児童が柔軟に対応できるようになることを目指している。コロナ禍明けに課題であった、児童の意識の低下に関しても、避難訓練を繰り返したり、毎月安全指導を行ったりすることで、避難訓練が自分の身を守るための、大切な時間であること意識が高められた。一方で、下校中の児童の様子が気になるという意見を地域の方からいただくこともあった。遊びながら下校する、道を広がって歩く、信号を守らないなど、学校外で大人が近くにいないときの安全指導を見直す必要があり、丁寧に対応をしていきたい。今年度は、臨時の安全指導を朝活動の時間に行い、児童へ迅速に指導をするようにしている。

毎月、安全点検を全教職員で行ったり、事故報告や衛生管理、校内での生活についての情報を共有したりして指導に当たってきた。また、校庭や屋上、体育館で事故が起こらないよう休み時間の教員による看護体制も強化し、安全確保に努めている。

○学校運営委員会

保護者アンケート「私は、毎月の学校運営委員会だよりを通し、本校学校運営委員会の活動・取り組みを知っている。」では、肯定的な回答が75.8%であった。昨年度（75.6%）と前年度とほとんど変わらない。毎月、「すぐー」で配信する「学校運営委員会だより」を一定数の方が読んでいることが分かる。また、6年生の「リアル職業調べ」、3年生の「祖師谷公園ワークショップ」、漢字検定など学校運営委員会が直接かかわる行事も例年通り行うことができた。今後、学校運営委員会が千歳小学校に通う児童にどう関わっているかを積極的に発信する場

も必要だと考える。

5、教育環境の整備の評価

本校舎の一部は開校当時からのもので古く、施設面では教育環境が決してよいとは言えない箇所もあるが、毎月の安全点検や用務主事、事務主事、区教委の対応により維持整備されてきた。

今年度は、トイレの改修工事や学級増による教室増設工事を行った。それにより、トイレの床、壁面が綺麗になり、児童がより安心して利用できるようになった。来年度は、給食室の工事が夏休みから冬休みにかけて行われる予定である。給食が提供できないことによって、教職員や保護者へ負担が増えることも考えられるため、お知らせや保護者会できちんと説明をするようにしていきたい。

また、設備に関しては、安全点検を通して、都度確認するようにしている。気になる箇所や修繕が必要な箇所については、用務主事、事務主事に対応をお願いしている。基本的に、即座に対応し、できる限りのことを行っている。学習用タブレットの故障も年々増えており、ICT活用推進委員会を中心に対応をしているが、新しい機器が提供されるのに時間がかかっており、教職員、児童が困る場面も増えてきている。故障や不具合があったときに、即座に対応するシステムが少しずつ拡充されてきているが、まだまだ追いついていない現状もあり、早急な対応を世田谷区へ求めていきたいと考える。

学習に活用する教材・教具類は、年次計画で補充している。限られた予算で購入できるよう、教科主任と事務主事が連携を密にしながら、できる限りの教材・教具の整備をしている。しかし、教材・教具類を管理する場所が限られているため、学期末の教材整理で活用できるもの、そうでないものを取捨選択していく必要性がでてきた。引き続き、年間指導計画に基づき、どのような教材・教具が必要であるかの計画も立てながら整備をしていきたい。